

小豆地域の新たな高校づくりに向けた意見交換会（第2回）議事要旨

日時 平成22年7月14日（水）15:00～17:00

場所 小豆総合事務所南館1階会議室

1. 開会

2. 第1回会議の議事要旨

3. 議事

(1) 小豆地域の統合校の教育内容について

- ①総合学科とは
- ②地域ならではの特色をもった教育について
- ③学科やコース等について
- ④入試の方法について

(2) その他

<主な意見>

(1) 小豆地域の統合校の教育内容について

①総合学科とは

- 選択幅が広いのは、総合学科、普通科総合選択制、普通科コース制の順と理解すれば良いか。
ーイメージはそれでよいが、実際は総合選択制とコース制には大きな差がない。

②地域ならではの特色をもった教育について

- 高齢化が進んでいることを思えば、看護師や介護福祉士の養成も考えられる。
- 例えば、将来の看護師の資格取得につながるような高校なら、島外からも人が来るのではないか。
他の資格でもよいかからそういう魅力をもつ学校が考えられれば面白いと思う。
- （2年次から多様な選択肢を設ける場合、）1年次にインターンシップや体験活動などによって、
2年次からの進路選択について考えれる科目を設けてはどうか。
- 中学校でも職場体験学習を実施しているが、生徒が大きく成長し効果的である。高校生にとっては社会で学ぶことが大きなプラスになると思う。
- （職場体験学習によって）将来、島で働きたいということになればさらに喜ばしい。
- 子どもたちには小豆島の歴史や魅力を知ってほしい。島外に出ても将来は島に帰りたいたいと思ってもらいたい。
- 総合的な学習の時間の中で、将来の進路だけでなく、体験活動の中で地域を知る、小豆島を知る「島学」のような学習も考えられる。
- 農村歌舞伎やオーリーブについて学習し、その成果を校外に向けて発表する機会を設ければ、校内での生徒指導よりも効果的な礼儀やビジネスマナーの指導、キャリア教育、社会性の涵養などが期待できる。

③学科やコース等の構成について

- 普通科総合選択制のメリットは多様な生徒の進路希望に対応できるということ。デメリットは時間割が複雑で、生徒の把握やクラス編成が困難だということである。
- 4つの素案の中で総合学科のみの素案Dは、小豆地域の統合校には相応しくないということで、皆さんの意見は一致していると思う。
- 資格取得を考えると、クラス単位の学習では対応できないので、クラスを分散する素案Aがよいと思う。簿記など高校で取得できる資格のメニューを用意してほしい。
- われわれには、学級単位の学校しかイメージできない。統合すれば生徒数が増えるのだから、学業成績が近い者で1学級を編成できるようになり、クラスを分散して学習する必要がなくなるのではないか。
- 経済的に厳しい家庭にとっては、進学にも就職にも対応できる高校が望ましい。
- 一番何が大切かと言えば大学進学だと思う。今は優秀な生徒が高松の高校へ出ていってしまう。島外へ出ていく生徒を島内に止めることが必要。
- 大学全入時代を迎える中で、普通科志向が強いのは間違いない。大学進学を前面に打ち出した高校づくりをすべきと考える。
- 「大学進学」が学校の魅力づくりにつながるだろうが、ほかに選択肢がないという島の事情を考えれば、一人ひとりの進路を保障する必要がある。生徒には本当に多様な能力・適性がある。島で唯一の高校は、多様な生徒の進路希望に対応できるほうが生徒にとって望ましいと思う。
- 高校では、インターンシップなどによりできるだけ多くの体験学習をさせてやりたい。資格取得は高校卒業後でも構わないので、子どもが自分の好きなことを見つけられるような学校を望む。
- 高校は次のステップで何をするかを考える時期なので、普通科をベースにした学校とし、あとは選択科目を用意する形がよいと思う。
- 現在の就職難や離職率の高さを考えると、高校では、専門的な知識や技術を習得することよりも職業観や勤労観を養うことが大切だと思う。

④入試の方法について

- 入試段階から特進コース(クラス)を目指せることが必要。特進コース(クラス)へ行けば鍛えてもらえるという期待に応えられるものにしてほしい。
- 島の中学生は高校進学について危機感が薄い。その中で島外の高校へ進む生徒の高い学習意欲が周囲に好影響を及ぼしている面がある。(入試段階から特進コース(クラス)を目指せるシステムにより)学習意欲の高い生徒を島内の高校で受け止めることができれば、全体に良い影響を与えてくれると期待する。
- 入試段階で、特進コース(クラス)と普通コース(クラス)を分けて募集すべきである。